



Beyond ちほう 2020 ってなに!?

【趣旨】

致芳コミュニティセンター(前致芳地区公民館)は、これまで取り組んできた地域住民主導による「社会教育」の推進や、地域課題解決のための「地域づくり計画」の推進などが評価され、この度、優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)を受賞しました。

かつて、「長井村」と呼ばれていたこの致芳地区は、昭和29年の1町5カ村が合併し、「長井市」が誕生した際に、致芳尋常小学校の校名から「致芳」の2文字を頂いたと伝えられています。更に、その「致芳」の校名は、明治40年の村の学校合併計画の際に、当時の馬淵鋭太郎山形県知事より教育の指標として揮毫していただいた「和致芳」の文字から名付けられたと伝えられています。

以来、致芳小学校の校是である「和致芳」は、地域住民にとっても合言葉であり、地域づくりの観点では、「和と活力のまち致芳」をキャッチフレーズに掲げ、住みよい地域を目指して活動しています。

このような経緯を顧みると、この致芳地区は、常に学校教育(小学校)と社会教育(公民館・コミュニティセンター)が密に連携し、活動を積み重ねる中で、郷土愛の醸成や人材育成などのプログラムが形成されてきたと言っても過言ではありません。

11月1日、致芳小学校は創立110周年を迎えます。この地域と小学校の慶事を記念して、これまでの致芳のアイデンティティ(独自性)を見つめ直し、さらにポテンシャル(潜在能力)を引き出し、次世代に繋ぐ事業を展開したいと思います。

始動! Beyond ちほう 2020

～学校とともに、地域とともに～



学校そして地域とともに

致芳コミュニティセンター
館長 横澤 敏

地域一体となった取り組みが認められ、今年2月に優良公民館として文部科学大臣表彰を受賞することができました。さらにより良い地域づくりに努めてくださいというメッセージだと思います。結局、延期になってしまいましたが、東京オリンピックの年、また、ちょうど致芳小学校も創立110周年を迎えることから、「Beyond ちほう2020」と銘打ち、この機に、より一層致芳地区一帯となって、「致芳」を思う人材(財)の育成と、ふるさと致芳が心の拠り所としてさらに相応しい地域になることを願いこのプロジェクトを立ち上げました。

ぜひ、未来に繋がるきっかけとなりますよう、地域一丸となって取り組みましょう。



地域とともにある 致芳小学校

致芳小学校
校長 鈴木 義明

4月入学式後、次の日から突然臨時休校になりました。経験したことがない子ども達のない春、子ども達のない学校、それでも校庭の桜の花は美しく咲きました。学校の主役は子ども達であり、子ども達のない学校はただの箱に過ぎないことを私たちは深く深く感じました。それは地域にとっても同じだったと思います。元気な子どもの姿を地域に発信することで、地域の方々にも喜んでほしい。地域の方々も学校に協力したい。そしてみんなが元気になっていく。それがコミュニティ・スクール致芳小学校です。そして、地域みんなでふるさと致芳を愛する子ども達を育てていこうという「Beyondちほう2020」。いよいよ始まります。学校・地域・コミセンが一体となって強く推進していく母体となると思います。その崇高な願いと実践に深く感謝申し上げます。